

実施報告書：建築文化交流事業（令和7年度）

歴史的建築の「読む力」を磨く ～温故知新～

主催：公益社団法人 兵庫県建築士会 女性委員会

令和7年度の建築文化交流会は、姫路文学館「望景亭」を舞台に開催されました。講師に西嶋宣久氏を迎え、実地での見学を交えながら、歴史的建造物の意匠や修復の知恵を深く学ぶ貴重な機会となりました。

1. 開催概要

日時：令和8年（2026年）2月11日（水・祝） 14:00～16:00

会場：姫路文学館 北館3階・望景亭（姫路市山野井町84番地）

講師：西嶋 宣久 氏

参加者：32名

開催挨拶：山本和代 司会：守山織衣



2. 講演・見学会の内容

本交流会では、姫路文学館の建設に際し、既存の「旧濱本家住宅」をいかに調査・改修・保存計画を行ったかという経緯から、具体的な建築的特徴まで多角的に解説されました。

■ 保存・改修の経緯

建築家・安藤忠雄氏により、既存建築のうち茶室と和室（広間）の保存が提案されました。

… **構成**：唐門を新しい玄関に移設。姫路市からの要望であった新設の洋室応接・事務所・厨房等を廊下で繋ぎ、既存建物と雁行（がんこう）型に配置することで、美しい庭園を最大限に活かした設計となっています。

… **解説資料**：改修前の配置図、全体写真、門、茶室、待合、洋館などの貴重な写真資料に基づき、具体的な計画工程が示されました。



■ 主要な解説・見学ポイント

項目	内容・詳細
1. 建物6：庭4	日本建築伝統の「雁行型配置」について解説。明治時代特有の工夫（四季を描いた建具、良材による狂いのない架構、鉄骨を用いた薄い軒先の表現など）の説明を受けました。
2 真・行・草	外観（下屋根・唐門）から内部空間に至るまで、格式に応じた「真・行・草」の使い分けを検証。待合の正客席からは男山や姫路城を望む「借景」の演出を体感しました。
3.魂は細部に宿る	唐門の意匠、各室の柱・梁の特徴、茶室障子紙の「石垣貼り」、天井板の貼り方向、畳の割付け、床寄せ・畳寄せ・腰張り高さの設定、基礎石の水はけ加工、レンガ基礎を隠した石垣基礎など解説を戴きました。

3. 閉会の挨拶

橋本副会長より、「こうした実体験を伴う学びの場に、ぜひ多くの若い世代にも参加していただき、建築士会活動の魅力を感じてほしい。」との言葉をもって、盛会のうちに締めくくられました。

